

あなたの「まなび」をナビゲート！ enjoy lifelong learning

# ma·navi

鳥取県生涯学習情報誌



中山海岸の海岸清掃

## 特集

# いいね、やろうよ！ 心を一つに活動中

楽しもなかやま(大山町)

- 04 私たちの活動をご紹介します！  
スマイル笑話(鳥取市)
- 05 とっとり県民カレッジ連携講座情報  
(9・10月)
- 23 社会教育・生涯学習担当者紹介(智頭町)
- 24 出前講座「魔法の板“カプラ”で遊ぼう！」を  
開催しました
- 25 鳥取県立生涯学習センター(お知らせ)
- 27 みてみて♪こんなしとするで～





大山町の研修・宿泊施設「友好館」。中には、「楽しもなかやま」の事務局もあります。

いいね、やろうよ!心を一つに活動中

## ～楽しもなかやま～

大山町下中山地区で、好きなことや得意なことを活かして、楽しみながら地域に貢献する地域自主組織「楽しもなかやま」。そのチャレンジについて、メンバーの皆さんにお話を伺いました。  
(3ページでメンバー紹介)

### やる気のある人に個別に声かけ

大山町が合併したときに、行政サービスの低下を防ぐため、旧小学校区にまちづくりの拠点をつくるのが提案されました。下中山地区でも準備委員会としてまちづくり協議会ができたのですが、自主組織として立ち上がらない状況が2年ほど続きました。「前に進まないのであれば、自分がやる」と、自ら会長を引き受けたのが楽しもなかやまを立ち上げた初代会長の西本さんです。

彼は集落から選出することにこだわらず、やる気のある人に声をかけて仲間を募り、少しずつ前に進みはじめました。どんな名称と理念にするか、1年かけて準備委員会で検討し、平成28年4月に「楽しもなかやま」を設立。集落からの代表16人と有志9人からなる「まちづくり委員」の登録は約25人。「楽しい」をキーワードに下中山地区のまちづくりに積極的に取り組んでいます。

### やりたいことがかなう会

「楽しもなかやま」では、自分の好きなことや特技を活かすことができます。実際に、やりたいことがある人が集まってきて、まちづくり委員になり、その人のやりたいことをメンバーたちがサポートする仕組みです。会に所属する意義を尋ねると、「やりたいことがあっても一人ではなかなかできないが、みんなでやれば形になるし社会にも影響力がある」と小谷さんはにっこり。「若い人や女性の声も反映される会」と続けます。

また、「楽しもなかやま」では地元の人はもちろんですが、Iターンで来た人も多いそうです。「よそから来た人は、地元の人があたり前に感じることを新鮮に感じる。見る視点が違う」と高塚さん。さらに、「県外から来た人はつながりを求めている。海岸清掃もみんなでするから充実感がある。生きている限り、社会とつながってほしいという想いはありますね」と小谷さんは話します。



## 「学び」はつきもの

活動の1つである海岸清掃は、大山町住民課の協力も得て、毎年海の日に実施され、約50人が参加します。海岸のゴミは、ペットボトルや日用品などさまざまです。「結構、みんなゴミのことに関心があって」と話す田中さん。ゴミのリサイクルを学ぶためにリサイクルプラザへ視察に行ったことも。「みんな質問攻めで、すごく楽しかったし勉強になりましたね」と振り返ります。

4年前からは、「楽しもなかやま」が大山町の研修・宿泊施設である「友好館」の指定管理者となりました。「友好館」に隣接する小川には、「楽しもなかやま」で整備したビオトープがあり、蜚が飛び交う姿を楽しむことができます。ビオトープを整備するにあたり、最初に取り組んだのは、専門家から蜚の生態について学ぶことでした。

また、ビオトープの横は森で、石井垣城という山城の跡があります。町内のことを知りたい一心で、城主の末裔である笹津さんに案内してもらい、みんなで森の中を歩いたことも。「私たちが歩いた後に、保育園児が散歩に行ったり、公民館主催で歩く会が開催されたり。私たちの取組がきっかけになったかもしれない」と自負します。

## 巻き込む力は、熱意の強さ

「事業は全て、自分たちもうれしいけれど、みんなも喜んでくれるという視点で動いている。要するに、地域に貢献できるようなこと。格好よく言うと」と笑顔で話す小谷さん。

「みんなが協力するコツは？」と聞くと、「やりたい！と手を挙げる人がいれば、いいね、やろうよ！って、同じ気持ちにみんながなること」と答えが返ってきました。「だれも反対せず、みんなが自分ごとにして盛り上がってきた。熱意の強い人がいれば、みんなを巻き込む力になる」と力を込めます。実際に、今年度の事業計画には、新しい企画は、みんなの理解が得られれば実現することができる「楽しもチャレンジ事業」という予算をとっています。

今後は、「各集落に出向き、直接住民の声を拾い上げるような福祉的な活動も広げていきたい」と会長の中田さん。まちの福祉にも関心を示します。

## サポーター募集中!

楽しいまちづくりのお手伝いを一緒にしてくれるサポーターを随時募集しています!



中山海岸の清掃活動



リサイクルプラザの視察



中山伝統の「いさい踊り」を子どもたちと踊る

地域の方が気軽に集える場を作りたいと、定期的にサロンを開催しています。



「楽しもサロン」を担当するのは、85歳の方

楽しもなかやまメンバー  
楽しんで活動中



小谷貴美子さん

もともと四国出身で、結婚して45年前に下中山にきました。夫と海を訪れたとき、「海の向こうはユーラシア大陸だよ」って言われ大感激して。10年くらい前からゴミが多くなっていることに気づき、ゴミを集めはじめました。「楽しもなかやま」で、「海岸清掃をやりたい!」っていう目標が具体的にありましたね。

子どもたちが活動に参加してくれるとやっぱりうれしいです。大人になったとき、ここで体験が楽しかったなと心に残っていたら、きっと地域の未来も変わってくるはず。



会長 中田 伸一さん



高塚 賢治さん

最初は積極的じゃなくて、どっちかっていうと無理やり誘われて(笑)でも、みんながやるんだったら、やってみようかなと思って参加しました。やれることはやっているのかな、一応県民目線で。

活動は、町からこうしようという縛りがなく、ゼロに近いくらい自由だったんですよ。大変だったけど、結果的にみんなが成長できた。ノープランだったからこそ、やりたいことに取り組めましたね。



田中 亜未さん



ビオトープが  
できるまで

4年前から「楽しもなかやま」が「友好館」の指定管理者に

「友好館」は、すぐ横に小川と山がある。この環境を守り、自然を活かしたい!

7~8年前までは、蛍がいっぱい飛び交っていたということを知り、「ビオトープ」を整備することに!



蛍の生育環境に合わせた草刈り

チャレンジその① 研修

まずは勉強!

樗谿公園(鳥取市)の蛍の専門家を招いて勉強会を開いたり、蛍が鑑賞できる金田川(南部町)へ視察に行ったりしました。

チャレンジその② 草刈り

1年目に、蛍が大発生!

蛍が生育しやすい環境にするため、草刈りを自分たちですること。

チャレンジその③ 赤い街灯にチェンジ

勉強すると、白い街灯が蛍にはよくないとわかり、手づくりの赤い生地のカバーを取り付ける。



街灯に赤いカバーを取り付け中

蛍が舞う環境が戻り、地域の人はもちろん、町外の人にも蛍を見に訪れるように!

問合せ先

楽しもなかやま

〒689-3111 西伯郡大山町赤坂760 友好館内  
TEL: 0858-49-3020 FAX: 0858-49-3021  
Eメール: tanoshimonakayama@gmail.com



# 私たちの活動を紹介します

鳥取市

## しょうわ スマイル笑話

<代表> 織田 洋さん

<連絡先> TEL 090-4144-9982

<設立年>平成 26 年

<会員数>6名

<活動内容>高齢者福祉施設（老人ホーム・デイサービス）、障害者支援施設での腹話術・マジック・アコーディオン演奏



このメンバーで笑顔をお届けます。

### 笑いを届ける

始まりはスマイルせつこ先生の腹話術教室でした。定年後の生きがい、話し相手が欲しい、さらに腹話術の腕を磨きたいなど、それぞれが目的を持って学ぶうちに、「どこかで演じてみたい」という思いが出てきました。先生に相談すると「やってみなさい」と背中を押され、デイサービス等に売り込みをはじめたところ、数カ所から声をかけていただきました。そこで問題になったのが会の名前です。下手だけど、笑いを届けようとの思いと、先生の名前がスマイルせつこなので、「スマイル笑話」と名付けました。

活動内容は、高齢者福祉施設や障害者支援施設を中心に、腹話術・マジック・アコーディオンの演奏を披露しています。月2回の練習を基本とし、技術の習得に励んでいます。最近ではリモートでの腹話術指導も受けていますが、上達はなかなかといったところです。

そんな私たちが大事にしていることは、一緒に笑うこと、楽しむこと、そして何よりコミュニケーションです。障害者支援施設では、重度障がい者の方と人形がコミュニケーションを取ることを大切にしています。



92才が奏でるアコーディオンは琴線に触れます

### 92歳の生涯現役ボランティア

私たちの会の最大の魅力は、なんとと言っても92歳になるNさんの存在です。訪問先ではよもやま話に花が咲き、予定時間をオーバーすることもしばしば。

以前、Nさんがアコーディオンで「故郷」を演奏したところ、「話をさせてほしい」と言って立ち上がり、涙を流しながら、子どもの頃の話を読まれた方がおられました。周りの人も感動し、涙をぬぐっておられたのが印象に残っています。Nさんは「上手でもないのになあ」と謙遜されていましたが、Nさんが奏でた「故郷」だからこそ人の心に響いたのだと思います。また呼んでいただくことを願わずにはられません。

### 求めれば出会いあり

今後は、さらに技術を磨き、重度障がいのある人たちの心に人形の声を響かせたいです。また、児童クラブでの活動が新たに決まり、会員みんな期待に胸を膨らませています。

笑いは免疫力を高めると言われています。笑いの力を身に付け、92歳のNさんを筆頭に、たくさんの人たちに笑いを届けたいと思います。

スマイル笑話のドアはいつでもオープンです。あなたの笑顔をお待ちしています。



人形の笑顔につられ、みんなにっこり